

■展示資料紹介

竹柏園文庫(一部) 昭和七年(一九三二)、信綱は自身の遺暦を記念し、故郷・石薬師村に「石薬師文庫」を寄贈しました。かつて父・弘綱が使用した土蔵が村に残っていたため、これを改修・移築して書庫とし、近くに閲覧所を併設すると同時にその維持費も寄付しました。図書の数々は、信綱が自らの蔵書の中から選別し贈ったもので、古書や書画の類も多く含まれました。それらの貴重書は特に「竹柏園文庫」と称され、地元の人々の間で広く活用されました。



竹柏園文庫(一部) 昭和七年(一九三二)、信綱は自身の遺暦を記念し、故郷・石薬師村に「石薬師文庫」を寄贈しました。



特別展のようす



信綱生家が記念館に(昭和45年)

平成29年度 佐佐木信綱記念館特別展報告

佐佐木信綱 記念館だより 32号

- 目次
- ・平成29年度特別展報告
 - ・講演会の様子
 - ・特別貸出協力
 - ・寄贈資料紹介
 - ・学芸員の気まぐれコラム
 - ・発見!新資料

十一月一日から十二月十七日まで、特別展「佐佐木信綱とふるさと石薬師」を開催しました。石薬師に現存する信綱生家が記念館として開館した昭和四十五年(一九七〇)以来、当館では様々なテーマで展示活動を行ってきました。今回



↑表紙



見開き→

全十八ページの冊子で、展示了資料の図版とその解説によって構成されています。会期中に無料配布いたしました。が残部にはまだ余裕がございますので(平成三十年三月二十日時点)、お求めの方はぜひ佐佐木信綱記念館へお越し下さい!

■特別展図録冊子

ふるさとを懐かしく偲んだことでしょうか。石薬師の風景を描いたこの絵を眺めながら、老年の信綱は微笑んだその傍らに、版画の一部が小さく見切れているのがお分かりいただけるでしょうか。石薬師の風景を描いたこの絵を眺めながら、老年の信綱は微笑んだその傍らに、版画の一部が小さく見切れているのがお分かりいただけるでしょうか。石薬師の風景を描いたこの絵を眺めながら、老年の信綱は微笑んだその傍らに、版画の一部が小さく見切れているのがお分かりいただけるでしょうか。

■チラシ製作裏話

本語(ほんご)いく(い)千万(ちやうまん)の中(なか)にして(して)なつか(なつか)しき(し)かも(かも)ふる(ふる)さと(と)とい(とい)ふ(ふ)は(は)の(の)一(いち)首(しゅ)から(から)は(は)、故郷(こきやう)への(への)深(ふか)い(い)愛(あい)情(じやう)と(と)親(おんな)しみ(み)が(が)溢(あ)れ(れ)て(て)い(い)ま(ま)す(す)。七(なな)十(じゅう)八(はち)歳(さい)の(の)老(らう)齡(れい)と(と)あ(あ)り(り)、結(けっ)果(こ)、こ(こ)れ(れ)が(が)生(なま)涯(がい)で(で)最(さい)後(ご)の(の)故郷(こきやう)訪(た)問(もん)と(と)な(な)り(り)ま(ま)し(し)た(た)。



折本『鈴鹿行』 昭和二十五年(一九五〇)の故郷訪問の際に「日記風にかきつけた」という七十一首を、その翌月、記念にと折本にして刊行したもの。石薬師で詠んだ「日



東京薬学専門学校女子部歌額(東京薬科大学所蔵)

狂歌に、促(ま)きに

佐々木信綱 作詞
沼部正 作曲

1. かみのみか がみり るわし-く さよきをみなの
2. マノナニ オフナ クイギ-ハの さマツゴの コシノ
3. むいくと くいくた たいく-ハの さマツゴの コシノ

1. こころも て た ゆます うまづつ とめはげ スバキ
2. クニノハシ ナテ マドコリ アフクれ ジシキふる
3. むねに し マイし らかたか けしきふる

1. か-さしん り-を た-んおのり す は なさけやく が-くわれ
2. か-サリ- ソ-フシ-クわろ ス ハ ナナケヤク ガ-クワレ
3. ざれいよ- い-よよ に-あけ スん は なさけやく が-くわれ

1. らのやくが く
2. ラノヤクガク
3. らのやくが

楽譜出典
東京薬科大学『東京薬科大学百年』(昭和55年)

記念館に来館されるお客様の中には、母校の校歌が信綱さんの作詞でした、と教えてくださる方が多数いらっしゃいます。中には私共がこれまで知りえなかつた校歌もあり、収集作業は尽きません。

ご利用案内

三重県鈴鹿市石薬師町に拠点を構える佐佐木信綱記念館は、明治・大正・昭和期の偉人として地元でも親しまれてきた佐佐木信綱(明治5—昭和38、歌人・国文学者)の遺功を称えるべく、昭和45年に鈴鹿市が設置した展示施設です。もとは「信綱生家」を拠点として開館しましたが、昭和61年に「信綱資料館」が併設されて以降、こちらを中心に展示活動が行われてきました。佐々木家がかつて書庫として使用した「土蔵」や、信綱が遺暦を自祝して寄贈した「石薬師文庫閲覧所」なども隣接し、いずれも一般公開を行っています。

かつての愛用品や、少年期の短冊、ペンネームの由来である名刺、唱歌「夏は来ぬ」の歌詞がしたためられた色紙など、数々の収蔵品を常時展示するほか、毎年秋頃には特別展も開催し、市内外への魅力発信に努めています。

佐佐木信綱記念館
鈴鹿市石薬師町 1707-3 TEL&FAX 059-374-3140

開館時間 9:00 ~ 16:30

休館日 毎週月曜、第3火曜(休日の場合は開館、翌日休館) 年末年始

アクセス 近鉄鈴鹿市駅からCバス乗車 佐佐木信綱記念館下車 徒歩2分
東名阪自動車道 鈴鹿ICから車で約20分

発行
鈴鹿市文化スポーツ部 文化財課(鈴鹿市神戸一丁目18-18)
TEL 059-382-9031 FAX 059-382-9071 HP 鈴鹿市文化財ガイド <http://suzuka-bunka.jp/>

講演会の様子

特別展会期中の十一月十一日、記念館内において講演会を開催しました。佐佐木信綱顕彰会様の主催による「信綱祭」の一環として毎年催されるこのイベントでは、学芸員による展示解説と、外部講師による関連講話をお聴きいただけます。

■当日の演題

- ・特別展「佐佐木信綱とふるさと石薬師」解説 (前田有紀・鈴鹿市文化財課)
- ・佐新書簡の公開―佐佐木信綱・新村出両博士の真心― (北川英昭・佐佐木信綱顕彰会)



講演中の北川氏



佐新書簡コーナー

北川氏は、『広辞苑』の編者として知られる新村出と、信綱との間で交わされた書簡―佐新書簡(※)―から一部を紹介し、両者の交流の実態について発表されました。五十八年にわたる長い付き合いがあった信綱



信綱(左)と新村出(右) 昭和30年

と出の関係を「真心」と形容されていたのがとても印象的でした。当日は、新村出のご令孫にあたる新村恭様にもお越しいただきました。また、特別展と並行して、新村出記念財団重山文庫様と北川氏のご協力のもと、展示室の一角に佐新書簡コーナーを設置し、実際の書簡(重山文庫所蔵)の一部を展示公開させていただきました。特に、信綱が出

に依頼した『父子草』序文の初校から最終校までの資料は、同コーナーの目玉展示として注目を集めました。 ※「佐佐木」と「新村」の頭文字を取って「佐新書簡」。両者がやりとりした封書・葉書の総称で、現存数は約一四〇〇通にのぼる(平成二十九年調査時点)。今後、北川氏と佐佐木信綱研究会の共編で『新村出宛佐佐木信綱書簡(佐新書簡)』(仮題)として刊行予定。

特別貸出協力

今年度の特別貸出は一件でした。



本居宣長展チラシ

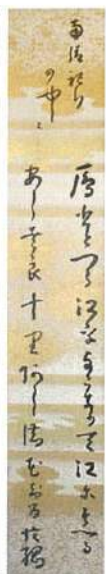
展覧会名	本居宣長展
会場	三重県立美術館
会期	九月三十日(土) 十一月二十六日(日)
主催	三重県立美術館 本居宣長記念館
出品資料	文海堂扁額、県居門人簿

寄贈資料紹介

今年度も多くの方々のご厚意により多数のご寄贈を賜りました。その中から数点を紹介いたします。



本居宣長坐像/佐佐木幸綱氏寄贈 信綱のご令孫である幸綱氏よりご寄贈いただいた資料の一つです。氏によれば、信綱が資金援助の礼として寄付者に贈ったのが、この像であるとのことです。 活躍した時代こそ重ならないものの、信綱は「先生」と呼び常に慕っていたといわれています。



南清紀行の中に 馬ひとつら江をよこぎりて江にそへる あしはら十里あしの花ちる 信綱

寄贈月	寄贈資料	点数	寄贈者
5月	川北一雄氏短冊ほか	54	鈴鹿市 個人
6月	本居宣長坐像 表彰記念品類	10	佐佐木幸綱氏
8月	信綱短冊ほか	10	神奈川県 個人
9月	信綱短冊幅ほか	4	神奈川県 個人

寄贈資料一覧表(寄贈順)。紹介を割愛した資料につきましても、記念館では順次展示を行ってまいります。



中国服姿の信綱

信綱詠歌短冊/神奈川県個人様寄贈 寄贈者様の祖母が信綱夫妻(特に雪子夫人)と親しくしていたとのこと。交誼の証にと信綱が書き贈ったものでしょうか。内容は、明治三十六年(一九〇三)の中国旅行中、アジア最大の河川・長江を下る際に詠んだ一首(「遊清吟藻」所収)。この旅行が、信綱にとって最初で最後の海外旅行となりました。

学芸員の気まぐれコラム

十二月一日、石薬師小学校において、信綱の曾孫にあたる佐佐木頼綱氏の講演会が開催されました。石薬師小学校の校長先生は、二十五年前にオランダの日本人学校へ赴任された際、当時留学中であった頼綱氏を指導したことがあったとのこと。信綱の生まれ故郷である石薬師の地で、お二人は奇跡的な再会を果たされました。

信綱一首 32 目とづればここに家ありき奥の間の机のもとに常よりし父

今石薬師にきて、じっと目を閉じていると、浮んでくる。ここに私たちの住まいがあった。家の奥の間の机に向かつていつも父の姿があった。「信綱かるた」より) 昭和二十五年、最後の故郷訪問の際の一首。当時、生家は別の場所に移築されていた。現在は元の場所に再移築されている。

発見!新資料

古典籍の調査研究のほか、唱歌や軍歌、校歌の作詞でも知られる信綱。特に校歌に関しては、石薬師地区女性学級や佐佐木信綱研究会によってそれぞれ独自に調査が行われ、作詞校数は優に百を超えると報告されています。 このたび東京薬科大学で発見された信綱の書跡は、同学の前身にあたる東京薬学専門学校女子部の校歌です。「ラジオ体操第一」等で有名な作曲家・服部正による作曲で、昭和十二年(一九三七)二月に校歌として制定されました。明治以来同学が基本理念として掲げる「花咲け薬学」というフレーズが印象的に繰り返され、格調高い学風がよく表現された歌詞になっています。



写真1



写真2

子供達にお話をする頼綱氏(写真1)にどこか生前の信綱の姿が重なる...というのは、文化財課某職員の話。昭和二十五年(一九五〇)に信綱が石薬師小学校で講演をした時の写真(写真2)と並べてみると、佐々木家と石薬師の人々の交流が絶え間なく続いていることがわかり、感慨深い思いがします。 脈々と受け継がれてきた「縁」をいつまでも大切に、当記念館としても展示活動等を通じて、これからの世代へとしっかりとトンを繋いでいけたらと思います。

情報・画像提供 東京薬科大学